

**地域社会とともに歩み続ける
総合エネルギー企業**

ガスエネルギー供給企業から、地域を元気にエナジャイズ（Energyize）する総合エネルギー企業へ。都市ガス事業の《鳥取ガス株式会社》と、LPガス事業の《鳥取ガス産業株式会社》は、創業100年を迎えた2018年を機に、提供するブランドとサービスを「enetopia」に一新。次の100年を見据えながら事業を展開している。エネトピアは、エネルギーとユートピア（理想郷）を組み合わせる言葉で、社会インフラに不可欠なエネルギーを地域で創出するとともに、人のエネルギー（活力）も引き出し、地域の人々と共にユートピアを実現したいとの願いが込められている。エネトピアグループ代表の児嶋太一社長は、東日本大震災直後の11年、鳥取ガス・鳥取ガス産業の代表取締役役に就任。震災をきっかけに集中型エネルギーシステムの脆さが顕在化する中、いち早く再生可能エネルギーを活用した「分散型エネルギーシステム」の構築を目指した。16年の電力小売全面自由化に先駆け、15年には鳥取市とともに新電力会社の《とっとり市民電力》を設立。市内においてメガソーラー太陽光発電所

を、また、下水泥処理で生まれる消化ガスを活用する《秋里下水処理場バイオマス発電所》の運転を開始し、16年から再生可能エネルギー由来の電力供給をスタートさせた。地域で創生した再生可能エネルギーは、とっとり市民電力を通じ、鳥取市内の公共施設や、《エネトピアでんき》として、一般家庭や事業所に届けられる。今では地域から調達される再生電力が5割に達し、電気エネルギーの地産地消が進んでいる。さら

に同年には、情報通信事業に参入し、高速インターネット通信《エネトピアひかり》事業をスタート。ガスサービスとの併用でプロバイダ料込みの月額利用料がお得になるサービスを提供している。長く「とりガス」と親しまれ、ガス事業者として築いた信用と実績を礎に、電力事業、情報通信事業から快適な暮らしをサポートする宅配水事業、住宅リフォーム事業などまで、付加価値の高いサービス提供をめざし、領域を広げるエネトピアグループ。20年には山陰地域のLPガスシェア拡大とエネトピアブランドの浸透を目指し、初めて島根県へ進出。松江市玉湯町に《エネトピア松江》を開設し、出雲、大東、安来エリアで、エネトピアでんきなどのサービスを展開している。

**持続可能な未来に向け
エネルギーの地産地消を推進**

2050年の脱炭素化社会の実現を目指し、環境負荷の低減、再生可能エネルギーを活用した取り組みを進めるエネトピアグループ。24年には、都市ガス（LNG／液化天然ガス）、LPガス（液化石油ガス）において、ガスの採掘から燃焼までの工程で発生する温室効果ガスを、森林の再生支援などによる二酸化炭素の削減分で相殺した《カーボンニュートラルガス》の取り扱いを新たに始めた。まず自社事業所や工場に導入し、お客様のニーズに合わせて販売していく。また、グループで脱炭素化技術の開発にも取り組んでいる。24年7月から、カナディア株式会社と日本下水道事業団が行う革新的技術実証事業に、鳥取市と鳥取ガス、とっとり市民電力が参画。地域の下水道資源を活用し、都市ガスの次世代燃料として期待される《e-Metan》の製造実証を開始した。実験は、市の秋里下水終末処理場の汚泥処理工程で生まれる「消化ガス」から、都市ガス原料の主成分「メタン」の生成を探るといふもの。消化ガスはメタンが6割、二酸化炭素が4割を占める。ガス中の二酸化炭素に水素を加えて反応させ、再生由来



エネトピアグループ
とっとり 鳥取ガス株式会社／鳥取ガス産業株式会社

山陰の人と地域を元気に豊かに
お客様の笑顔が私たちのエネルギー

32
LEADING COMPANY



**中国四国ガス
親善野球大会**

中国地方5県、四国地方の都市ガス事業者各社から、所属の軟式野球チームが年1回集まり交流を深める《中国四国ガス親善野球大会》。2024年9月大会は、鳥取ガスを主幹事に全9チームが参戦。鳥取市のヤマタスポーツパークを含む2球場で、熱戦を繰り広げた。



**鳥取西部の戦略拠点
《エネトピア米子》**

1992年、現在地の米子市東福原に設立した《キョウエイガス》が、西部進出の始まり。その後、2001年開設の《鳥取ガス産業 西部支店》を経て、2018年《エネトピア米子》へ。大山町から境港市までの西部全域で、LPガス供給、各種サービスを提供している。



**毎年秋のビッグイベント
《エネトピア展》**

社員主体で企画するお客様への販売イベントは今年で63回目。最新のガス機器、IHクッキングヒーターや電気給湯器などのオール電化商材がそろい、快適で便利、エコな暮らしを実現する提案が盛りだくさん。岩美、鳥取、倉吉、米子、松江と別会場で、順次開催されている。



**先進的取り組みで事業拡大
児嶋太一代表取締役**

松江市生まれの鳥取育ち。母方の実家のある松江、奥出雲町は緑のある場所で、《エネトピア松江》の開設に思いがこもる。電力会社設立は、1918年に市民運動で誕生した鳥取ガスの創業者、児嶋幸吉（1857～1929）の悲願でもあった。100年を経て達成した。



エネトピアグループ
鳥取ガス株式会社
鳥取ガス産業株式会社

事業内容

ガス事業、ガス器具の販売、都市ガス工事、簡易ガス事業、その他の関連事業、LPガス・高圧ガス販売

創業 大正7(1918)年7月9日
代表者 代表取締役社長 児嶋 太一
社員数 133名(男102名 女31名)
本社 鳥取県鳥取市五反田町6
電話 0857-28-8811

採用エリア(勤務地)

鳥取市、倉吉市、米子市、松江市

採用区分

新卒採用 キャリア採用

採用担当者からあなたへ

エネトピアグループの強みは、総合エネルギー企業としてお客様の生活を多方面から支えることができます。鳥取・鳥根の皆様の暮らしを豊かにするために一緒に働きませんか。誰かのために役に立ちたい!そんなあなたの一歩踏み出す勇気を、全社員がサポートします!



総務グループ
総務人事チーム主任
牧田 朋久さん

資料請求・お問い合わせ先

採用直通 TEL

0857-28-8813

採用直通 E-mail

makita@enetopia.jp

公式サイトはこちら



鳥取市内の供給エリアに、ガスを安全に、安定して届けるため、ガス管や圧力調整器など設備の維持管理を行うのが、導管保安グループの仕事だ。「道路の下に埋まっているガス管を守るため、その近くで道路の拡張、住宅の撤去、水道敷設など工事があると、必ず施工業者と事前協議を行い、工事にも立ち会います」。入社半年で、業務と向き合う姿勢が評価されている金山さん。「3か月の研修期間のおかげです。エネトピア全体の業務を学んだ後、配属部署の業務を2か月間じっくり学べたので、今の業務に役立っています」

鳥取から松江まで拠点が広がるエネトピアグループ。入社後は、自宅から通いやすい勤務地で活躍できるのも魅力だ。鳥取ガス産業・エリア営業グループの山形由太(やうた)さんは、入社3年目。県西部の日野町出身で、米子工業高校卒業後、「エネトピア米子」で採用されている。拠点「ピア米子」で採用されている。拠点は、事務スタッフを含め全部で9名。30代から60代までの社員がそろった中、山形さんは一番の若手だ。担当エリアは、米子市内の東福原、皆生と、山形さんの地元・日野町。コンロや給湯器などガス器具のセールス提案、保安点検、ガスボンベの配送と交換、配管工事など、業務内容は幅広い。「だからこそ、一人のお客様に対して発生する業務をすべて経験でき、感謝されるのが魅力」と話す。「以前は人と接するのが得意ではなかったけれど、一つずつ仕事を覚えるうちに、苦手意識が無くなりました。今は、お客様とふれあうことが大切で、楽しさを実感しています」

鳥取ガスと鳥取ガス産業2社は、取り扱うガスが異なるため別法人になっているが、社員の待遇、福利厚生(宿直手当支給含む)、人事・教育制度などはすべて同一である。それぞれの会社に配属されると、人材育成を目的とした「ジョブローテーション制」により、2〜3か月をステップに、さまざまな業務を経験。中間層社員にポイントをおく人事評価制度で、2社どちらでも活躍できる人材を育てる。また、ガス取り扱い業務に必要な資格をはじめ、電気、

馬場さんと同期入社した金山将太(しょうた)さんは、鳥取ガス・導管保安グループに配属された。本社工場で製造した都市ガスは、地下や地上に埋設・固定した導管網(パイプライン)によって、目的地まで届けられる。馬場さんと同期入社した金山将太(しょうた)さんは、鳥取ガス・導管保安グループに配属された。本社工場で製造した都市ガスは、地下や地上に埋設・固定した導管網(パイプライン)によって、目的地まで届けられる。馬場さんと同期入社した金山将太(しょうた)さんは、鳥取ガス・導管保安グループに配属された。本社工場で製造した都市ガスは、地下や地上に埋設・固定した導管網(パイプライン)によって、目的地まで届けられる。

「人を想い、未来を創る」
エネトピアの仕事あれこれ

鳥取ガスと鳥取ガス産業2社は、取り扱うガスが異なるため別法人になっているが、社員の待遇、福利厚生(宿直手当支給含む)、人事・教育制度などはすべて同一である。それぞれの会社に配属されると、人材育成を目的とした「ジョブローテーション制」により、2〜3か月をステップに、さまざまな業務を経験。中間層社員にポイントをおく人事評価制度で、2社どちらでも活躍できる人材を育てる。また、ガス取り扱い業務に必要な資格をはじめ、電気、

鳥取ガス産業・ビジネス推進グループの馬場春樹(はるき)さんは、24年入社。長く男性社員が占めるビジネス営業チームで、久々の女性戦力として期待が寄せられている。「新卒社員は、入社当日に配属先が発表されるのですが、自分でも驚きました」と振り返る。最初はチームにうまく馴染めるかどうか不安だったが、直属の竹中淳取締役部長をはじめ、上司、先輩もフランクに接してくれ、ガスエネルギーの知識や扱う商材など、小さな疑問でも親切に答えてくれる。今は少しの不安もなく、信頼のおける先輩の下で、営業の仕事の流れを勉強中だ。「営業先の工務店様や住宅メーカー様を通し、一人でも多くのお客様にガスエネルギーの良さ、魅力を発信できるようにになりたい」と語る。



1 竹中淳取締役・ビジネス推進グループ部長 2 エネトピアグループの懇親会 3 社員の希望で開設された本社3階の社員食堂 4 宿直室は個室・エアコン完備の快適空間 5 農村集落と連携して活動する《とっとり共生の里》事業に参画。国府町楠城地区の草刈りや水路保全、農産加工品振興に関わっている 6 鳥取市吉成の市民体育館の命名権を獲得し、改築工事を支援。2023年6月《鳥取市民体育館エネトピアアリーナ》が再オープンした



資格取得に向けて上司とマンツーマンの勉強会

入社1〜2年目で、ガス業務に必要な《第二種販売主任者》、《保安業務員》、《工事設備士》の資格を取得した山形さん。「資格に挑戦する度に、上司が勤務時間内に勉強会を開いてくれ、モチベーションが上がります」



仕事は慎重かつ丁寧に。社内では自然体で過ごせる

導管設備の保守点検では「誤認」に気をつけるという金山さん。仕事は慎重・丁寧に「もったい」だが、職場はとても和やかで、自然体で居られるという。元高校球児で、鳥取ガス野球部に所属。親善野球大会に出場した。



新築・リフォーム住宅向けガス器具導入を提案

工務店・住宅メーカーに対して、ガス器具や電化商材を提案する馬場さん。最新の人気モデルが集まる《エネトピアプラザ》で勉強会を開く。商品知識だけでなく、器具の取り付け施工まで提案できる紹介を目指す。